

企業名： エフピコ

---

レポート名： エフピコレポート 2024

---

### 1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

理解できる。4 ページの代表取締役会長兼エフピコグループ代表の佐藤様が「どのようなときであっても安定供給の責任を果たし、安全・安心な食生活を支えてまいります。」と将来像について明確に宣言している。具体的な施策についてはその後に記載があり、6つの項目が挙げられている。①関西工場・関西ハブセンターの設立による安定供給の強化。②リサイクル・太陽光発電などによる環境への対応。③お客様のニーズを捉えた製品価値拡大への取り組み。④物流 2024 年問題への対応。⑤九州地方での販売力強化。⑥業務全般におけるデジタル化・IT 化の推進。以上のように具体的なプランを明示することで、上述の将来像に説得力を持たしている。また、2024 年のテーマとして「前進」を掲げており、短期的な将来像まで明示している。

### 2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

概ね理解できるが、不十分な点がある。エフピコはバリューチェーンを軸に製造、物流、販売、リサイクルまで自社グループで完結させており、特に物流の面で大きな競争優位性を持っていると考えられる。エフピコは全国をフルカバーする物流ネットワークを構築しており、具体的には配送センターから半径 100 km 圏内で日本の全人口の約 85% をカバーできる。34 ページには関西圏の大型生産・配送拠点の関西工場・関西ハブセンターの特集が記載されており、従来の課題であった関西地域への安定供給が可能になったことが強調されている。以上のことからエフピコに物流の面で競争優位性があると理解できる。一方で、外部環境に関するデータが乏しいことが不十分な点として挙げられる。食品容器・トレーの全体の市場規模やシェアについての数値的なデータの記載がないため、エフピコが持っている物流という競争優位性が外部に対してどれほどの影響があるのか判断が難しい。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

理解できる。理由としては2点挙げられる。1つ目は配送業と倉庫業を自社展開している点である。ほとんどの生産工場の同敷地内に配送センターとピッキングセンターを配置し、コンベアによる製品移動を行っている。このような内製化は配送業と倉庫業の両面のノウハウが蓄積することにつながり、将来的に生産性が高まると分かる。2つ目は「物流 2024 年問題」に対応するために様々な施策を行っている。走行距離の削減という面では上述の 100 km 圏内に日本の人口 85% をカバーする物流ネットワークの構築が寄与している。作業・走行時間の削減という面ではトラック内部に効率的に貨物を積載できる専用パレットを開発

している。他にも様々な解決策を実施しており、ドライバーの労働環境の改善に努めている。以上の2点から物流という競争優位性が今後も持続すると考える。

#### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

達成できると考える。55 ページには人材育成方針の記載がある。レポート自体に記載されている情報は乏しいが、QR コードからエフピコの HP を閲覧することが可能になっており、詳細な情報が述べられている。HP から特に研修に注力していると分かる。女性や外国人、中途採用者など多様な人材が活躍できるよう、新入社員から管理職、役職者まで細やかな研修が実施されている。具体的には、マンツーマンリーダー研修が挙げられる。新入社員の育成担当となったマンツーマンリーダーが1年を通してメンターになる研修である。新入社員への教育と同時に、マンツーマンリーダー自体のスキルアップも目的としている。他にも海外研修や自己啓発支援制度など自身のスキルアップにつながる施策が数多く存在することから、人的資本の価値向上の達成は可能だと考える。

#### 5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

全体的に非財務情報が充実しており、エフピコが企業価値向上に向けて多くの施策を行っていると分かった。バリューチェーンに関しても各項目で丁寧に説明がされており、現在の競争優位性や、その持続性について記載されていた。改善点としては外部環境に関するデータが乏しい点である。食品容器・トレーの市場がどれほどの規模であり、エフピコは其中でどの立ち位置に存在するのか理解できるデータがあればより優れたエフピコレポートになると感じた。